

## 第1回調査記録 2018年11月15日

### 1. 巡礼古道 庚申塔多数

巡礼古道の庚申塔は、他の場所の庚申塔とは異なり、資料により基数はバラバラであり、設置場所についても一致していない。また、大多数が単に三角形の根府川石に庚申塔と刻まれているのが大半である。従って、他の場所の庚申塔は、庚申塔に何が刻まれているか、形状、サイズなどを比較調査しているが、ここでは庚申塔がある場所と数について比較調査する。

#### A 既存資料データ

「木村」では、定性的な記述のみで具体的にどこにいくつあったというような記述はない。「堀」と「WEB」には具体的個数が記述してある。数については調査結果欄の比較表を参照

#### B 調査結果

ハイランド側から、宅間ヶ谷に降りる方向で調査した。逗子市久木と鎌倉市浄明寺との境の住宅街を抜け、浄明寺緑地に沿って歩くと、左側に古道らしき道があり「巡礼古道」と書かれた手作り風の木の案内板が古道の入り口にある。道は人一人歩けるくらいの広さで雑木林に囲まれ、所々鎌倉石の岩肌が見られる。入口よりしばらく歩くと右側に2基の板状の庚申塔が岩壁に横たわって置かれている。これを最初に、多くの庚申塔が次々と現れる。過去の調査との比較を表に示す。過去の調査と比較してみても、今回の調査結果がどのように対応しているか正確にはわからなかった。ただ、道標、自然石達磨型の庚申、塔やぐらのなかの地蔵が新旧を同定することは比較的容易なので、これを基準にした。

これを見るとかなりバラバラで、庚申塔を見落としたのか、庚申塔以外のものを庚申塔と判断したのか、失われたのか、移動したのか いろいろな要因が重なっていると思われるが、調査により差異が大きくある。

表 調査数量比較

「堀」	「WEB」	今回の調査	備考
1995年頃	2002年頃	2018年11月	調査期日
2	3	2	
道標あり		道標あり	奉納百八十八番 くまの参道 木村博吉 など彫られている。
谷側1		なし	道標のすぐ近くと推定
3		なし	左1を除いて、総数は11個で数は合う。しかし、「鎌倉の庚申塔」では道標近くに右3個と記されているように読める。どれがどれに対応するかははっきりとわからず。かなり移動されているのではないと思われる。
3		1	
..		3	
5	5	7	
1	1	1	達磨型自然石
谷側1		なし	
3	1		「鎌倉の庚申塔」合計11個がWEBの資料では13個 今回調査では7個となっている。今回の調査とどう対応するのかわかりません
	3		
	5		
	5		
3	3	4	
3	1	3	
15	13	15	やぐらの近くに13個 古道沿いに2個 そのうち1個は割れている。
1	1	1	やぐら 地蔵右下
2		3	やぐら 地蔵左 棚上
1	2	2	やぐら 地蔵左下
7	7	7	坂道
3	3	3	坂道
4	4	1	坂道 どう対応するのかわかりません
9	3	2	
	1	1	
69	56	57	合計

## 2. 報国寺境内 2 基本

### A 既存資料データ

右 正面 庚申塔

中 庚申塔外

左 庚申塔

近づけないのでサイズ測定なし

### B 調査記録

「木村」には記載なく「堀」のみ。有料エリアのため無料で入れる福寿手帳を持つ者だけで入って調べたが、見当たらなかった。

## 3. 華の橋際 1 基

### A 既存資料データ

道標

正面 庚申供養塔 上辺日月 頂辺三猿(?い?)

右面 一ばんすぎもと江道

左面 二ばんいわどの江はしより入

裏面 寛政十二年 庚申十一月

24×(猿 14+60+台 10) 28×77

### B 調査記録

「木村」と「堀」の記録内容は右面の最後の文字が道「木村」か江「堀」か解釈の相違があるが、右面は「左一ばんすぎもと道」と彫られていると判断した。造立者の名前はない。